

第IV期 第 11 回 国立天文台科学戦略委員会議事抄録

日時：2025 年 8 月 21 日（木） 13 時 00 分～14 時 47 分

場所：国立天文台第一会議室、Zoom

出席者：

（台外）高田昌広委員（Zoom）、高橋慶太郎委員（Zoom）、戸谷友則委員（Zoom）、堀田英之委員（Zoom）、渡邊誠一郎委員（Zoom）

（台内）井口聖委員（Zoom）、生駒大洋委員、齋藤正雄委員、竝木則行委員、藤井友香委員（副委員長）、本原顕太郎委員（委員長）、吉田道利委員（Zoom）

欠席者：

（台外）秋山正幸委員、石原安野委員、濤崎智佳委員

（台内）都丸隆行委員

陪席：

（台外）運営会議：河野孝太郎委員、住貴宏委員（Zoom）

（台内）土居守台長、堀久仁子特任専門員、金子修研究推進課長、大内香織研究支援係長

1. 確認

1.1 国立天文台科学戦略委員会名簿および出席者確認

本原委員長から、出席者の確認を行った。

1.2 第 10 回議事抄録の確認

本原委員長から、7 月 14 日に開催された第 10 回国立天文台科学戦略委員会の議事抄録（案）について説明があり、承認された。

2. 報告と議論

2.1 2025 年度将来シンポジウムについて

本原委員長から、2025 年度将来シンポジウム実施計画案の説明があり、意見交換を行った。

意見交換の結果、全ての提案に対して国立天文台に要望するリソースの具体的な数値を追加 RIX で要求し、全体の積み上げを行うこととした。

（主な意見交換）

○各コミュニティからのフィードバックについて

ーサイエンスロードマップ（以下、SRM）へのコミュニティからのフィードバックとしてどのようなものを想定しているか。

ーSRM から抜け落ちているものがあれば指摘してもらう最後の機会と考えている。各コミュニティから将来計画の検討状況を共有してもらい、それに加えてフィードバックをもらうことを想定している。

ー提出された LOI を包括する形で SRM を策定するのであれば、コミュニティの将来計画とは必ずしも一致しない。その点がシンポジウムで初めて明らかになるのではその後の

SRM の修正が大変な作業になってしまう。シンポジウムまでに何らかの形で整理し、明確にしておくことが今後の作業をスムーズに進めるために重要である。

ーSRM 報告書の「世界的な天文学の動向」の記述は、科学研究部が LOI を見ずにサイエンスとして纏めようとしている。今後、本委員会が各提案を当てはめる作業を行う過程で、配慮されていない部分が明らかになると思われる。

ー国立天文台の科学戦略を作成する際にも、コミュニティの考え方を把握した上で、そことの対応などを整理してもらえると良い。

○国立天文台各センターのリソースについて

ー先端技術センター（以下、ATC）のリソースに期待する無限の要求がある中で、センター長は人員が限られておりこれ以上は捌けないというプレゼンを何度もしてきている。踏み込んだ議論をしてコミュニティにも理解してもらわなければ苦しい状況はいつまでも変わらない。

ーSRM を実現するにあたり解決しなければならない問題である。構造的なものであり、全体の話として議論するのが効果的である。センター側に予め伝え、そのような議論が出来るような発表を行ってもらうことが大事である。

ー国立天文台には実績があり人もいると思われるが、実際はぎりぎりの状態である。若い世代が未来志向で進めたいと言っている中で、ギャップを埋められるよう踏み込んだ現状認識をしっかりと述べておくべき。

ーSRM の策定にあたり、各提案が ATC や ADC に対して要求している人的リソースの積み上げは行うのか。行わないのであれば実施計画を作成する際に問題が生じ、結局 SRM が実現できないという結果になってしまう。

ー定量的な数字の積み上げは可能であり、評価は行わず事実として書けば良い。サイエンスは大事だが、何かを捨てて何かを残すことをしなければならず、色々なことを考えるための基本になる。

ー将来シンポジウムでは、現状のように色々な提案の計画が少しずつ遅れるということで良いのか、或いは SRM で選別を行い計画通り進むものと実施出来ないものが出るほうが良いのか、という議論を行えると良い。色々な可能性を提示してコミュニティの意見を収集すべき。

ーこれまでの RIX でもリソースの要求を出してもらっているが、積み上げには情報不足である。マンパワーや計算機の容量などを明確に指定して追加で依頼することとしたい。

2.2 タウンミーティング

2.2.1 プレゼン資料案の確認

本原委員長から、タウンミーティングのプレゼン資料案について説明があり、意見交換を行った。意見交換の結果、SRM に掲載する計画に 2 段階の優先度を設定することをタウンミーティングで説明することとした。

また、将来シンポジウムの 1 か月前に SRM 報告書の素案を公表し、将来シンポジウムでの意見収集の趣旨をアナウンスすることとした。

(主な意見交換)

- ー現状のタウンミーティングの資料案は **SRM** 策定の検討を開始する時点で言っていた内容である。検討を進める中でどこを意識してどのような位置付けで策定しようとしているのかを説明し、完成版に近いイメージを持ってもらえるようなものが望ましい。
- ー全ての提案を何らかの形で **SRM** 報告書に掲載するのであれば、その中でどの様な線引きを行い、どの様なニュアンスで書くのかは心積もりしておくべき。タウンミーティングである程度の状況を説明し、意見を聞けば良い。
- ーこれまでの議論では掲載する計画の優先度を 2 つの粒度で分けることとしている。国立天文台として強く推進すべきものと、もう少し検討が必要なものであり、どのように表現するかは考える必要がある。
- ーこれまでは **SRM** に載る載らないの判断を行い、載せるものに優先順位は付けないという説明をしている。誤解のないようにしておく必要がある。
- ー優先度の粒度として、是非やるべきものはあって良い。その他に、やる可能性があるものと現状のままでは難しいもので線を引き、そこが **SRM** に掲載されるされない、というラインであると考えている。実質的には3段階になる。
- ー将来シンポジウムの位置付けが分かりにくい。その場で参加者が何を言えるのかをイメージしておいてもらうべき。**SRM** 報告書の素案を公表する際に説明が必要。
- ー**SRM** に載せる載せないの異議申し立てではなく、中身についての意見収集を行う場にしたということを明確にアナウンスする。

2.3 実施計画の策定に向けて

齋藤委員から、タウンミーティングで説明する実施計画策定手続きに関して説明があり、意見交換を行った。

(主な意見交換)

- ー実施計画の策定にあたっては、国立天文台の中で具体的に誰が策定するのかということと、コミュニティに対してどれだけ透明性があり説明責任が果たされていくのかということが一番重要である。
- ー主に国立天文台執行部が策定することにしており、各段階でコミュニティのフィードバックを受けることが重要と考えている。今後議論を深めて具体化し、本委員会でも説明することとしたい。

以上